

2024年5月17日

北海道知事  
鈴木直道 様

北海道と入植植民地主義を考える「意見箱プロジェクト」

## 道民活動センターに関わる公の施設利用許可に際しての ヘイトスピーチ防止のためのガイドライン制定の要望書

私たち「意見箱プロジェクト」は、北海道内外の大学教員、メディア関係者、アーティスト・アートワーカーなどから構成され、北海道と入植植民地主義についての議論を深めることを目的に、2023年1月に結成された市民団体です。

2024年3月10日に道民活動センター「かでの2・7」1階かでのホールで開催された日本会議北海道本部アイヌ問題シンポジウム実行委員会（以下、「シンポジウム実行委員会」）主催のシンポジウム「改めて問う アイヌはなぜ先住民族にこだわるのか？」についての意見をお送りします。

北海道立道民活動センター条例第9条は、「指定管理者は、道民活動センターの施設等を利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の承認をしてはならない」と定め、具体例には「(1) 利用の目的が道民活動センターの設置の目的に反するとき」が挙げられています。

道民活動センターの設置の目的については、「道民自らの創意や活力が活かされる地域づくりに必要な社会福祉活動、生涯学習活動、女性活動、アイヌ文化活動等の組織的な活動の促進及び道民が行う学習、研修、交流等の機会の充実を図るため、北海道立道民活動センター（以下「道民活動センター」という。）を設置する。」と明文化されています。

私たちは、以下の3つの点から、シンポジウム「改めて問う アイヌはなぜ先住民族にこだわるのか？」は同センターの設置目的に反するものであると考えます。

第一に、「改めて問う アイヌはなぜ先住民族にこだわるのか？」というイベント名に「こだわる」という表現を使うことで、アイヌが先住民であるという「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」の第一条に明記された前提を、言外に否定する意図が窺えること。

第二に、同シンポジウムについて、イベントの詳細が記載されたウェブサイト「暴走する

「先住民族論」「驚愕の補助金利用の実態！」といった表現で説明がなされており、これらもそれぞれ、先住民族であることの否定や、あたかもアイヌが不正を働いているという事実に基づかない偏見を助長する意図があると考えられること。

第三に、同ウェブサイトの他の記事に、「歴史文献で明らかな捏造 常軌を逸した報道」や「〇〇から見たアイヌ先住民族説の嘘」といった投稿が多数見られることも、同団体がアイヌの存在を否定する差別的活動を継続していることがわかります。こうしたことから、シンポジウム実行委員会の表現活動が、表現の自由の範囲を逸脱した特定の集団に対する憎悪を煽るための事実に基づかないヘイトスピーチであると考えられること。

上記の理由から、「改めて問う アイヌはなぜ先住民族にこだわるのか？」は、道民活動センターの設置の目的として定められた、「道民自らの創意や活力が生かされる地域づくりに必要な社会福祉活動、生涯学習活動、女性活動、アイヌ文化活動等の組織的な活動の促進及び道民が行う学習、研修、交流等の機会の充実を図る」ことの、とくに「アイヌ文化活動等の組織的な活動の促進」と相反するものと私たちは捉えています。

本件に関しては、2月28日に道民活動センターに同内容の意見書を送り、3月9日に返答を得ています。道民活動センターからの回答は、「(条例第9条第1号の)利用の目的が道民活動センターの設置の目的に反するとき」については、「設置の目的に反する」とは、積極的な意味でその目的を阻害するような場合を言うものと認識しており、当該シンポジウムはこれに該当するとは考えておりません」というものでした。(別紙資料を参照のこと)

すでに述べたように、シンポジウム「改めて問う アイヌはなぜ先住民族にこだわるのか？」を開催することは、「アイヌ文化活動等の組織的な活動の促進」の機会の充実を図るために設置された道民活動センターの目的に明らかに反するものであり、上記の回答はとても納得できるものではありません。

つまるところ、こうした道民活動センターの判断は、札幌市および北海道に、ヘイトスピーチ解消法を踏まえた公の施設等の使用手続に関するガイドラインがないことに端を発していると考えられます。

したがって、私たちは、北海道に以下の事項を要望します。

## 要望項目

1. 「京都府公の施設等におけるヘイトスピーチ防止のための使用手続に関するガイドライン」などの先行事例を参照し、ヘイトスピーチ解消法を踏まえた道内の公の施設等の使用手続に関するガイドラインを制定すること

2. 同ガイドライン制定に向け、北海道の組織機構を整えること

以上

意見箱プロジェクト事務局担当  
北海道教育大学非常勤講師  
小田原のどか  
odawaranodoka@gmail.com